

MeBio 数学テキスト

東進数学コンクール12月

—問題と解答—

第 1 章

問題

§ 1 問題

東京出版発行の「大学への数学」の裏表紙内側に、毎月「東進数学コンクール」が掲載されています。高校生向けの超難問ですが、数学的にも深い意味を持つものばかりで、出題者の能力に感心するばかりです。2016年12月号の問題は次の通りでした。ほったらかしにしておくとう完全に忘れてしまうので、メモを残すことにします。

東進の問題 1-1-1

鋭角三角形 ABC の 3 つの傍接円のうち、辺 BC , CA , AB に接点を持つものをそれぞれ w_A , w_B , w_C とする。ここで

w_B , w_C の共通外接線のうち三角形 ABC の辺ではないものを l_A ,

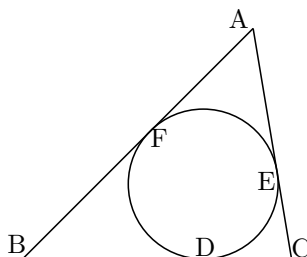
w_C , w_A の共通外接線のうち三角形 ABC の辺ではないものを l_B ,

w_A , w_B の共通外接線のうち三角形 ABC の辺ではないものを l_C とおく。

これら三直線の内接円が l_A , l_B , l_C と接する点をそれぞれ P_A , P_B , P_C とするとき、三直線 AP_A , BP_B , CP_C は一点で交わることを示せ。

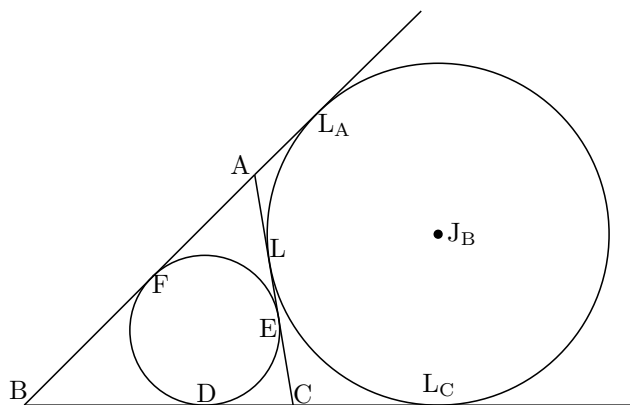
§ 2 解答

三辺の長さを $BC = a$, $CA = b$, $AB = c$ と置く。簡単のため $c > a > b$ とするが、他も場合も同様に出来る。三角形 ABC の内接円と辺 BC , CA , AB の接点を D , E , F と置く。



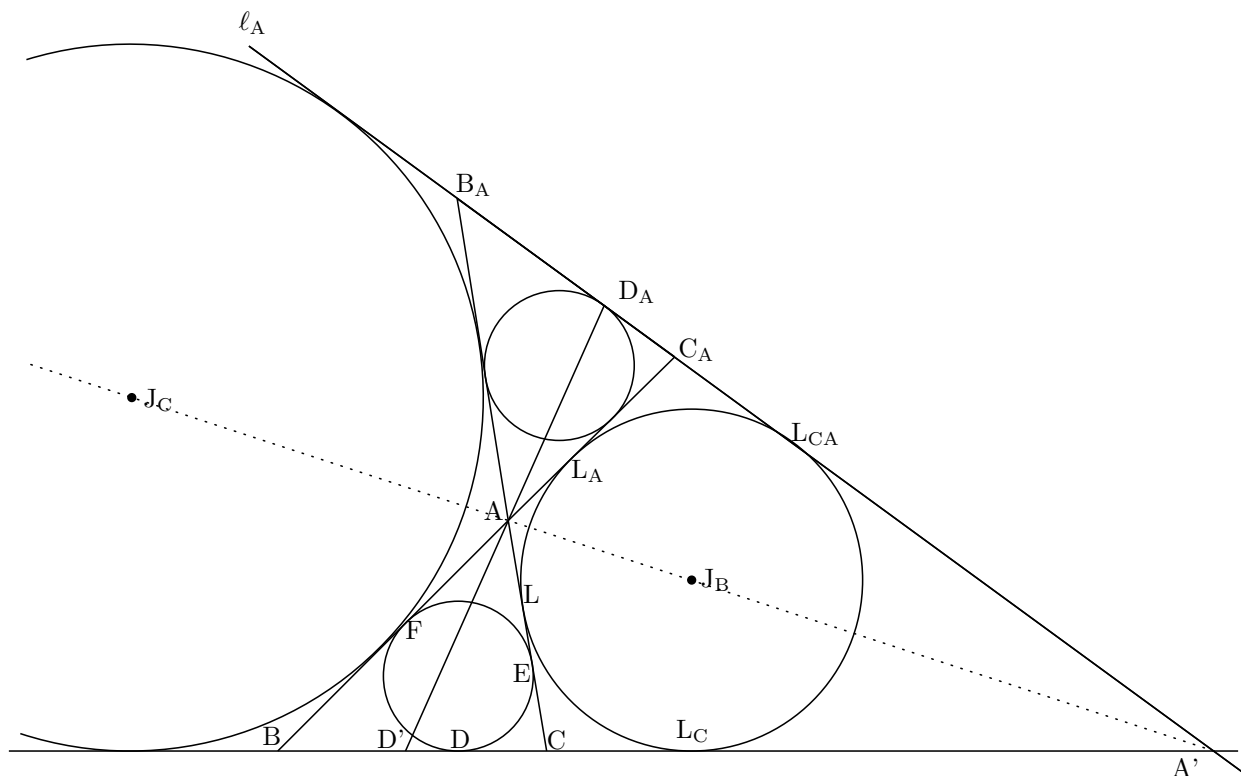
$AE = AF = x$, $BD = BF = y$, $CD = CE = z$ と置く。 $x = \frac{-a+b+c}{2}$, $y = \frac{a-b+c}{2}$, $z = \frac{a+b-c}{2}$ であることは容易にわかる。

次に三角形 ABC の傍接円 w_B と辺 BC , CA , AB の接点を L_C , L , L_A と置く。



$AL = AL_A = z = \frac{a+b-c}{2}$, $CL = CL_C = x = \frac{-a+b+c}{2}$ であることは容易にわかる.

傍接円 w_A, w_B, w_C の中心を J_A, J_B, J_C とする. l_A は直線 BC を直線 J_CAJ_B に関して対称変換したものであるから, l_A, BC, J_CAJ_B は一点で交わる. その点を A' と置く.



直線 J_CAJ_BA' に関する B, D, C, L_C の対称点を B_A, D_A, C_A, L_{CA} とすると, $B_AD_A = BD = y = \frac{a-b+c}{2}$,

$D_AC_A = DC = z = \frac{a+b-c}{2}$, $C_AL_{CA} = CL_C = x = \frac{-a+b+c}{2}$ が成り立っている.

後で必要となるので $A'C_A (= A'C)$ の長さを求めておこう. $A'C_A (= A'C) = p$ と置く. 三角形 $A'B_A C$ と直線 BAC_A に関するメネラウスの定理より

$$\frac{A'C_A}{C_A B_A} \times \frac{B_A A}{AC} \times \frac{CB}{BA'} = 1$$

$$\iff \frac{p}{a} \times \frac{c}{b} \times \frac{a}{a+p} = 1 \iff cp = ab + bp \iff p = \frac{ab}{c-b}$$

(別解) 次のように解くことも出来る. 直線 BC と l_A のなす角は $C - B$ なので,

$$p = AC_A \sin \frac{\pi - A}{2} \times \frac{1}{\sin \frac{C - B}{2}} = b \frac{\cos \frac{A}{2}}{\sin \frac{C - B}{2}} = b \frac{\sin \frac{A}{2} \cos \frac{A}{2}}{\cos \frac{B + C}{2} \sin \frac{C - B}{2}} = b \frac{\sin A}{\sin C - \sin B} = \frac{ba}{c - b}$$

別解終わり □

さらに直線 $D_A A$ と辺 BC の交点を D' と置こう. $CD' = r$ とすると, 三角形 $A' B_A C$ と直線 $D_A A D'$ に関するメネラウスの定理より

$$\begin{aligned} \frac{A'D_A}{D_A B_A} \times \frac{B_A A}{AC} \times \frac{CD'}{D' A'} &= 1 \\ \Leftrightarrow \frac{p + z}{y} \times \frac{c}{b} \times \frac{r}{r + p} &= 1 \\ \Leftrightarrow (cp + cz)r &= byr + bpy \\ \Leftrightarrow r &= \frac{bpy}{cp + cz - by} \end{aligned}$$

ここで

$$\begin{aligned} \text{分母} &= cp + cz - by \\ &= c \frac{ab}{c - b} + c \frac{a + b - c}{2} - b \frac{a - b + c}{2} \\ &= \frac{1}{2(c - b)} \{2abc + (c - b)(ac + bc - c^2) - (c - b)(ab - b^2 + bc)\} \\ &= \frac{-b^3 - c^3 + ab^2 + ac^2 + b^2c + bc^2}{2(c - b)} \\ \text{分子} &= bpy \\ &= b \times \frac{ab}{c - b} \times \frac{a - b + c}{2} \\ &= \frac{a(ab^2 - b^3 + b^2c)}{2(c - b)} \end{aligned}$$

従って

$$\begin{aligned} r &= \frac{\frac{a(ab^2 - b^3 + b^2c)}{2(c - b)}}{\frac{-b^3 - c^3 + ab^2 + ac^2 + b^2c + bc^2}{2(c - b)}} \\ &= \frac{ab^2(a - b + c)}{-b^3 - c^3 + ab^2 + ac^2 + b^2c + bc^2} \\ BD' &= a - r \\ &= \frac{ac^2(a + b - c)}{-b^3 - c^3 + ab^2 + ac^2 + b^2c + bc^2} \end{aligned}$$

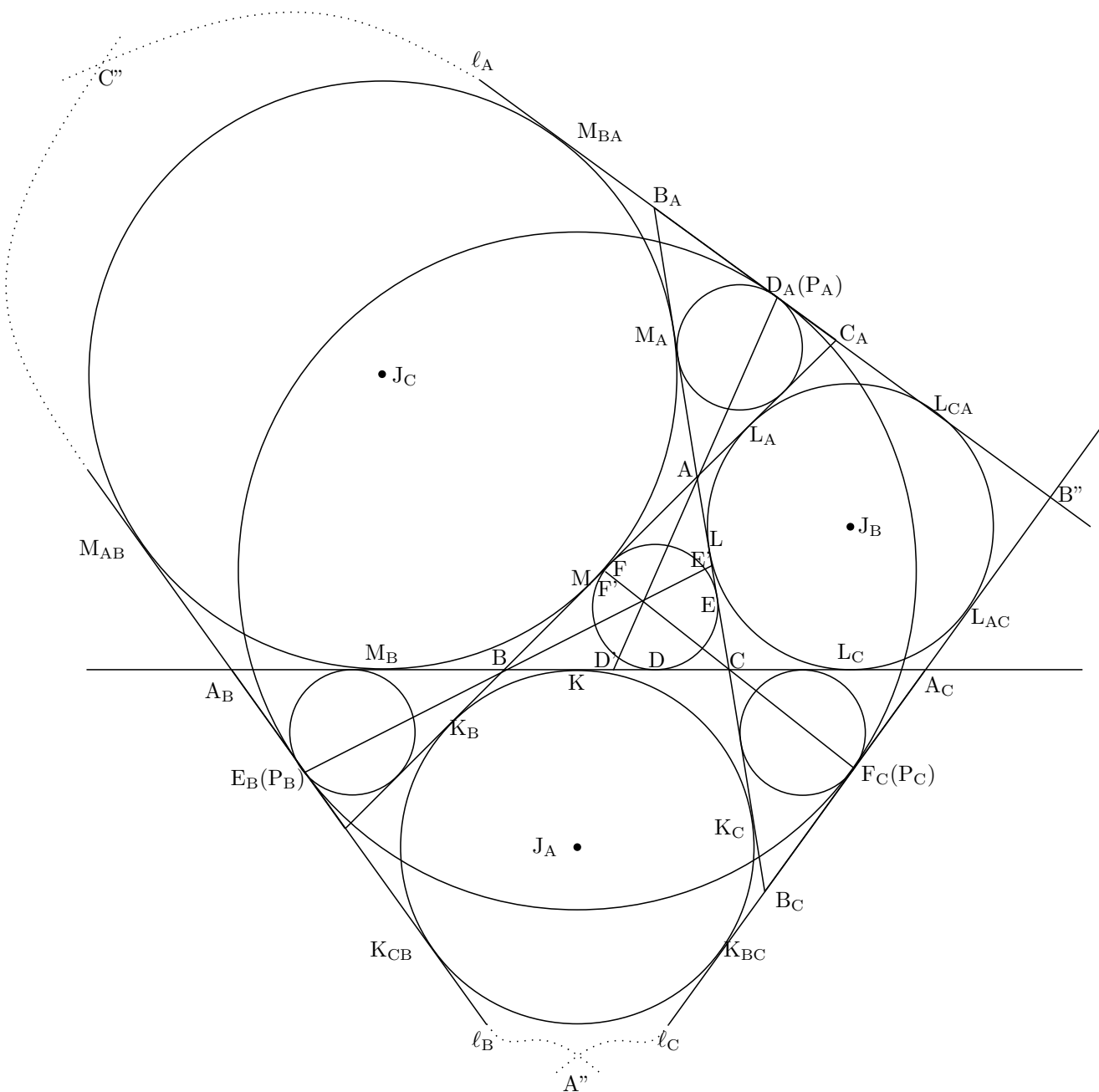
以上のことを ABC の各傍接円に適用する. 図では点線で書いてあるが, 直線 l_A, l_B の交点を C'' , l_B, l_C の交点を A'' と置いている.

補題 1-2-1 P_A は D_A に一致する.

証明 三角形 $A''B''C''$ において

$$\begin{aligned} B''D_A &= B''L_{CA} + L_{CA}C_A + C_AD_A \\ &= B''L_{CA} + x + z \\ B''F_C &= B''L_{AC} + L_{AC}A_C + A_CF_C \\ &= B''L_{AC} + z + x \end{aligned}$$

従って $B''D_A = B''F_C$ が成り立つ. $C''E_B = C''D_A, A''F_C = A''E_B$ も同様である. これは D_A, E_B, F_C が三角形 $A''B''C''$ の内接円の各辺への接点であることを意味する. つまり P_A, P_B, P_C に一致する. □



問題の証明 1-2-2 直線 $E_B(P_B B)$ と辺 AC の交点を E' , 直線 $F_C(P_C C)$ と辺 AC の交点を F' と置こう. 問題の主張は AD', BE', CF' が一点で交わるということであるが, これはチェバの定理の逆により容易に証

明できる. 先程 $BD' = \frac{ac^2(a+b-c)}{-b^3-c^3+ab^2+ac^2+b^2c+bc^2}$, $D'C = \frac{ab^2(a-b+c)}{-b^3-c^3+ab^2+ac^2+b^2c+bc^2}$ (従って $BD' : D'C = c^2(a+b-c) : b^2(a-b+c)$) を求めたのと同様に, 他の長さ (および比) も求めることが出来, それを使うと

$$\begin{aligned} & \frac{AF'}{F'B} \times \frac{BD'}{D'C} \times \frac{CE'}{E'A} \\ &= \frac{b^2(a-b+c)}{a^2(-a+b+c)} \times \frac{c^2(a+b-c)}{b^2(a-b+c)} \times \frac{a^2(-a+b+c)}{c^2(a+b-c)} \\ &= 1 \end{aligned}$$

従って AD' , BE' , CF' が一点で交わることが証明出来た. □

注 1-2-3 この交点は三角形 ABC の各頂点に $a^2(-a+b+c)$, $b^2(a-b+c)$, $c^2(a+b-c)$ のおもりを置いたときの加重平均点になっている. この点が幾何的に何か重要な点なのかどうかはよくわからない.

注 1-2-4 最初見たときは複素数を使えるかと思ったのだがどうもそうではないようだ.